

21世紀・横浜開化

企画局コンベンション都市推進課 平成11年度入庁

喜多 麻子

て特定のイメージをつくりやすいともいえる。すると、二十一世紀を見据えた横浜の都市づくりの観点から、コンベンション都市という言葉が浮かび上がってくる。

横浜は、コンベンションを開催することで、多くの来街者が市内で消費活動を行うことによる経済効果のみならず、人が集まることによって情報の発信基地となりシティーセールス効果につながるといった複合的な都市計画を目指している。

今の横浜のイメージとはなんだろうか。横浜といわれてすぐに思い浮かぶのが、港の見える丘公園、外人墓地等だろう。しかし、「今の」横浜をとらえようとすると、なかなか難しい。

例えば同じ港でも、横浜は後背地が大きいため神戸などに比べて港町の一言では括れない郊外としての余地が多分にある。東京のベッドタウンとして急速に発展してきたため郊外が大きく広がり、輪郭の定まりにくい、とらえどころのないものになっている。だが、曖昧だからこそ、コンセプトを与えることによっ

質があることを合わせると、コンベンション都市構想こそ横浜にふさわしいコンセプトであると言えるのだ。

最後に、今後の取組みについて述べたい。海外における横浜の知名度が驚くほど低いことは海外旅行等の折に感じているところであり、横浜の魅力をアピールすることが大切だ。横浜の魅力の一つは、横浜ベイスタジアムの優勝に湧いた時のような「元氣」だと思ふ。人はパワーのあるところに惹きつけられ、集まってくる。都会的でクールな印象を持たれている横浜だが、東京ほど洗練されているわけではないし、スノップだけではどこか田舎っぽいところもある。そこに、横浜のパワーがあるような気がするのだ。

横浜は、ワールドカップ決勝戦開催という世界の注目が集まるまたとないアピールの機会を手にした。つかみどころのない横浜は、コンベンション都市として前進している。二十一世紀の横浜の開化が、今始まる。

あとがき

「教育と政治については、誰もが語れる課題だが、誰もが満足な解答を出せない」という言葉を聞いたことがある。それは、教育と政治の課題が国家レベルでも地域社会でも、人間社会の全体状況から出発している、個別の原因を特定できないからだ、とも聞いた。そのような問題意識から、今回、教育に関する特集を企画するにあたっては、「学校」、「教育委員会」の枠にとどまらない「多様な教育の営み」を地域社会とのかかわりの中で検討することとした。

この三年間、成熟化の過程にある大都市「横浜」における行政施策の新たな方向を「調査季報」の特集テーマで追求してき、多様性と自律性を前提とする「成熟型社会」の概念は、教育の分野でも「新たな社会の創造と適応」を促す大きな流れであることが確認できたように思う。△南▽

インタビューや取材をすすめる過程で、横浜では、都市ならではの多様な教育の営みが、思いの外、多数存在していることがあらためて浮き彫りになった。それらの活動の中には、従来の「お稽古」や「塾」とどまらず、変化する人間社会の中で、自分の存在基盤を確かめる方向で試行錯誤を前提として取り組まれていた。このように数多く見受けられた。このような活動には、「大人」が子どもたちを一方的に「教育」するのではなく、子どもだけでなく「大人」も含め

「自分発見と自己実現」の途上にあり、子どもを対象とした「教育活動」であっても、お互いの人格をぶつけあいながら、多種多様な選択肢を前提に自己実現を図る模索の「協働作業」の過程であることも、おぼろげながら認識できたように思う。

「調査季報」は職員が自由に意見を発表し討論する行政研究誌です。「自主研究レポート」への投稿をお待ちしています。

応募される方は、事前に研究の概要をA4紙三枚以内にとめて企画局政策部調査課までお送りください。

FA X 六六三・四六二二
お問い合わせは、
電話 六七二・二〇二九

●第137号(一九九九年三月)

特集・多様化する働き方とこれからの都市

多様化する働き方と担い手とその特徴 佐藤博樹

自治体現場からみた就労問題の諸相と就労支援

①地域における雇用の現状とその対策 板倉良雄

②中高年ホワイトカラー問題と神奈川県人材銀行の窓口から 緑川征支郎

③女性就労の今日的課題 高田順江

④中小企業の動向と起業家支援 相澤武志

新しい働き方とその動向と課題

①座談会・起業するコミュニティその可能性を探る 大江守之・片岡勝・木下慶子・中野聰恭

市川孝史・石原敏明・南学

②コミュニティビジネスとしての家事代行サービス

主婦就労の場としての「オフィスポケット」 丹羽勝子

③コミュニティビジネスとしての情報サービス しーぶるねっと金沢 井上隆吉

④商店街の公益活動と福祉のまちづくり活動 市川俊明

⑤テレワークとこれからの都市生活 堀越久代

連載②/市営バス七十年を迎えて 市営バス事業の現況と今後の方向性 大保光興

①市民活動先進地域としての横浜の課題 小沢朗・重内博美・竹前大

②憲法八九条後段と「横浜コード」…憲法解釈論と政策論 青柳幸一

自主研究レポート/連載②安政の開港、平成の邂逅…みなとみらい21をめぐる歴史的背景 村田和義

調査&政策研究/平成十年度横浜市民意識調査から 企画局調査課

新鮮力/多角的な視野を持った行政マンに 石原従道

●第138号(一九九九年六月)

特集・自治体におけるPR

1 座談会・自治体におけるパブリックリレーションズ 稲垣吉彦・山田雅通・宮永邦人・杉山正美・岡田優子・齋藤紀子・南学

2 市民との対話の現場から 大澤隆

①福祉調整委員会における苦情調整活動の現場から

②対話と信頼のある関係をめざして 森香里・黒田美夕起

③顔が見える関係と区と区民との共通理解の方法と課題 藤田譲治

④税務窓口における市民との対応事例 久根口昭二

3 市民と自治体の共通理解のあり方

①市民と自治体の共通理解とは自治体におけるPR概念の動向を踏まえて 三浦恵次

②市民と自治体の共通理解のために「タックスペイヤーの視点から」 沖浦公隆

4 横浜市の広報・広聴 光田清隆・鹿嶋富美雄

5 高度情報化時代のPRとインターネットによる質的变化 池谷敏・山口健太郎

連載②/市民活動と自治体の協働に向けて 重内博美・小沢朗・竹前大

調査&政策研究/横浜中学校給食食器調査の結果と対応について 教育委員会事務局学校保健課

新鮮力/行政広報は広報紙が主役 松原正和

●第139号(一九九九年九月)

特集・「コンパクトシティ」考

1 コンパクト・シティ原論 倉田直道

2 座談会・横浜市と「コンパクトシティ」 内海宏・加川浩・小玉亮子・浜野四郎・南学

3 成熟都市のまちづくり戦略

①分権時代の都市経営とコンパクトシティの背景 土井一成

②新たな国土計画と横浜の戦略的都市づくり 八幡準

4 コンパクト化へ向けたまちづくり

①コンパクトシティと交通機関 佐藤正治

②中心市街地の活性化と商店街からタウンセンターへ 秋元康幸・小沢朗・長谷川創

③生活福祉と住まいまちづくりとコンパクトタウンから考える 岡田朋子・統橋宏昭・宮里辰男・宮澤好

④都市自然との共生とコンパクトシティ 桐原隆・倉知秀朗・綱河功・田並静・藤井毅

⑤地域特性に対応した事業のあり方とコミュニティ総合補助金と個性ある区づくり推進費から考える 大木節裕・竹前大

⑥コンパクトシティと情報ネットワークにおける共通要素 山口健太郎

自主研究レポート/横浜市の都市計画マスタープランと都市づくりの「視点」の重層化に関して 小西真樹・武井伊織・鶴田傑・齊藤直子

自主研究レポート/HCSケッチー地域における健康づくりの拠点の姿を考える 飛鳥田充・松本まり・齊藤春恵・今市尚子

調査&政策研究/ユニバーサルデザインの推進と施策研究会レポート ユニバーサルデザイン推進プロジェクト

新鮮力/生まれる選択肢 清水菅

調査季報

140

1999年12月

編集・発行

横浜市企画局政策部調査課

〒231-0017横浜市中区港町1-1

TEL.045-671-2029

1999年 12月 24日発行

横浜市広報印刷物登録

第110070号

類別・分類A-BA011

デザイン サウスピア

印刷 株式会社ガリバー

ISSN0387-8899

この印刷物は再生紙（古紙混入率70%）を使用しています